

さくらまちじんやあと  
桜町陣屋跡

ものい  
真岡市物井



(撮影 上野訓宏)

江戸時代の1823年に小田原藩主大久保忠

真の命令で、二宮尊徳（金次郎）が桜町復興の

ために赴任しました。尊徳は26年間この陣屋

で復興に努め、有名になりました。

二宮尊徳が広めた「報徳思想」とは、「至誠」

を基本とし、「勤労」「分度」「推譲」を実行す

る考えです。この考えを実行していくのが「報徳仕法」です。二宮尊徳はこの「報徳思想」

を広め、実践していくことで、ききんや災害などで困っていた多くの藩や村を救いました。



「至誠」・・・「まごころ」のこと。

「勤労」・・・物事をよく観察・認識し、社会に役立つことを考えて働くこと。

「分度」・・・自分の置かれた状況や立場をわきまえ、それにふさわしい生活をする事。

「推譲」・・・将来に向けて余ったお金を家族や子孫のために貯めておく、または、他人や世の中のためにゆずること。

二宮金次郎（尊徳）墓域

桜町陣屋跡の近くにあります。二宮尊徳は18

56年に70歳で亡くなりました。ここには、

尊徳の遺髪を葬った墓と、尊徳の長女、二宮

文子の墓があります。



(撮影 上野訓宏)



## 二宮尊徳<sup>しりょうかん</sup>資料館

二宮尊徳<sup>いぎょう</sup>の偉業<sup>えいごう</sup>を写真<sup>えいぞう</sup>や映像<sup>しょうかい</sup>で紹介<sup>しょうかい</sup>しています。

また、尊徳<sup>てんじ</sup>が使用<sup>てんじ</sup>していた道具<sup>てんじ</sup>が展示<sup>てんじ</sup>されています。